

日本社会情報学会 (JSIS) ニュース

第40号 2010.12.4

日本社会情報学会 (JSIS) 事務局

〒737-4312 広島県呉市郷原学びの丘1-1-1

広島文化学園大学社会情報学部社会情報学科今田研究室気付

TEL 0823-70-3300 FAX 0823-70-3311

e-mail : s-info@hbg.ac.jp

URL : <http://www.soc.nii.ac.jp/jsis/>

日本社会情報学会 (JSIS) 会費等振替口座 (ゆうちょ振替口座)

- ・口座名 日本社会情報学会
- ・口座番号 00140-2-763005
- ・口座住所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-38-4 産業プラザB1
NPO法人iコミュニティ内 日本社会情報学会 (JSIS)
会費・和雑誌受領担当 和泉恵子
- ・e-mail : desk@NPOicom.com

- I 2010年度第15回研究大会が開催されました
 - II 会費納付先の確認
 - III JSIS と JASI の統合について
 - IV 会員状況
 - V 会長の指示による「会計プロジェクトチーム」の設置
 - VI 企画委員会～若手研究者支援企画報告
 - VII 事務局から (お願い・ご連絡)
 - VIII 第59回日本社会情報学会 (JSIS) 理事会議事録
 - IX 日本社会情報学会 (JSIS) 2010年度16回総会 議事録
-

I 2010年度第15回研究大会が開催されました

9月4日(土)～9月5日(日)、長崎県立大学シーボルト校にて、第15回研究大会が開催されました。参加者等は以下の通りです。

参加者合計 245名 (JSIS&JASIの参加者219名、一般参加者26名)

【会員参加者内訳】

JSIS会員参加者 103名

JASI会員参加者 116名

【一般参加者】

一般参加者 (WS6 一般無料公開分) 26名

～大会参加者の感想～

名古屋大学大学院 情報科学研究科
博士後期課程 近藤 真由

日本社会情報学会(JASI&JSIS)合同研究大会へは博士前期課程1年の時から参加し、今年で5回目でした。大会前日には若手支援部会によって開催されたプレカンファレンスへ参加し、アジア太平洋地域の社会情報学や社会情報学の国際潮流についての議論を、大変興味深く聞かせて頂きました。

また、自由報告では地域サイトに関する研究発表を行い、今年も座長やコメンテータをはじめ、多くの先生方から貴重なご意見を頂きました。また、その他のセッションにおいても、社会的な視点に着目した研究成果が多数発表されており、社会情報学という時代のニーズを担う分野の重要性を強く感じました。

今後とも諸先生、諸先輩の皆様、ご指導をよろしくお願いいたします。

II 会費納入先の確認

旧口座への振込が確認されています。会費等の振込は以下までお願いします。

日本社会情報学会（JSIS）会費等振替口座（ゆうちょ振替口座）

- ・口座名 日本社会情報学会
- ・口座番号 00140-2-763005
- ・口座住所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-38-4 産業プラザB1

NPO法人iコミュニティ内 日本社会情報学会（JSIS）

会費・和雑誌受領担当 和泉恵子

III JSIS と JASI の統合について

III-1 「統合」に向けた方針～伊藤会長より

今期、会長をお引き受けしてから、JSISとJASIとの関係をより深め、「統合」に向けて積極的に対話をおこないたい旨の方針をご提案いたしました。その観点から、会員みなさまにアンケートをおこない、会員の方々のご意見を伺いました。アンケートの結果は、会員の約4割の方々から回答があり、回答者の7割近い方々が「統合」「連携強化」に前向きであることが示されました。詳細は、アンケート結果をご覧ください。

これを受けて、総会ならびに理事会では、「統合」に向けたJASIとの協議をはじめることのご承認をいただきました。そこで、10月23日に第1回のJSIS・JASIの会長・副会長による話し合いの場を設け、以下の「III-2 JSIS/JASIの「統合」に関する合意事項」に記載している基本的な事項を合意・確認し、今後具体的な検討をすすめることにいたしました。今後も、会員みなさまのご意見を十分に尊重しながら、この件をすすめてまいりたいと思います。ご意見等、ぜひお寄せください。

<学会の将来に関するアンケート集計結果>

調査日：7月20日に調査票配信，7月26日，8月2日，23日に督促。

調査方法：E-mailによる回収 回答者187名(会員の41.7%)

集計結果：

質問1 合同研究大会の評価	該当数	(%)	質問2 今後の関係	該当数	(%)
1. 研究に大変成果	55	29.6	1 「統合」「合併」	104	55.9
2. 研究にまあまあ成果	57	30.6	2 上部組織とブランチ	23	12.4
3. それほど成果なし	8	4.3	3 連携強化	19	10.2
4. 成果なし	1	0.5	4 現状のまま	3	1.6
5. わからない	63	33.9	5 独自路線	6	3.2
6. 無回答	2	1.1	6 わからない	28	15.1
総計	186	100.0	7 無回答	3	1.6
			総計	186	100.0

質問4 JASI会員	該当数	(%)
1 JASI会員	21	11.3
2 JASI非会員	159	85.5
3 無回答	6	3.2
総計	186	100.0

問3 問2の理由

問2で「(1)統合・合併」または「(2)上部組織とブランチ」を選択した理由

- (1) 同じ名称の学会が二つ併存することによって問題やデメリットが生じている。
(外部から混乱を招き、紛らわしい、不自然である、学術内容の訴求力が弱体する、会員を分断する、研究者の交流を阻害する など) 58件
- (2) 社会情報学の学際性、多様性という特徴から考えると、統合・合併によって社会情報学の発展に寄与できる。
また、このことが社会からも求められている。 11件
- (3) 2つの学会で共通する領域や会員の関心領域が多く、目的・使命などに違いがみられない。13件
- (4) 規模が拡大することによってさまざまなメリットが生まれる。41件
(社会への影響力大、社会情報学の発展、学会活動の活発化、会員サービスの充実、会費の問題、運営事務の負担軽減)

特に、「(2)上部組織とブランチ」を選んだ理由

- (5) それぞれの学会の経緯・目的・使命・文化・背景などが違うため、急には「統合」できないので、上部組織とブランチを置く必要がある。特に、研究方法やスタンスには大きな違いがある。また、特に文型と理系の違いは大きく、「統合」には向かない。 15件
- (6) 統合することによって、失われるものを危惧する。2件
(例えば、ユニークな研究が盛んであったJSISの研究風土などが消える、弱小少数研究が消えてゆく など) 1件
- (7) 統合には時間がかかりすぎるので、上部組織を作り、それぞれの学会や個人がそれぞれの考えに従ってブランチに関わるのが最も短時間でしかも問題が生じない。1件

問2で「(3)連携強化」「(4)現状のまま」「(5)独自路線」「(6)わからない」を選択した理由

- (8) それぞれの学会において目的・趣旨が異なり、また、研究スタイルが異なり過ぎるので、「統合」は困難である。だから、それぞれの学会が独自性を全面に出すべきである。 16件
(研究分野が異なる、文型と理系の違いは大きい など)
- (9) 統合によるデメリットが大きい。 3件
(組織の肥大化によるデメリット、それぞれの学会の良さが消える、合同研究大会によってJSISの自由な発想・視点からの問題提起が少なくなった、研究発表が減少した など)
- (10) 統合のメリットを感じない。 4件
- (11) 判断するに十分な二つの学会に関する情報がない。 2件

Ⅲ-2 JSIS/JASIの「統合」に関する合意事項（10月23日の合同会合において）

- 1 両学会の会員の意思を尊重し、両会長は「統合」に向けて努力する。
- 2 「日本語名が同一だから統合・合同を考える」という理由ではなく、ポジティブに社会情報学に関する新たな考え方、理念に基づいて「統合」に取り組み、文理融合の学問分野であることを強く内外にアピールする。
- 3 この「統合」はJSIS、JASI、の両会員による協力の経緯を踏まえたものである。
- 4 「統合」に向けた検討は、2012年3月を目途に終了することを念頭に置いて進める。
- 5 「統合」に際しては、両学会の特徴を生かし相乗効果が生まれるように工夫する。
- 6 「統合」の過程で、「社会情報学」の重要性を広くアピールする広報活動も重視する。

- 7 両学会の会長・副会長（および理事）等による「合同統合部会」をつくり、その下に具体的な検討をおこなう幾つかの作業部会を早急に組織する。
- 8 各作業部会の第1次プランを2011年6月、第2次プランを2011年秋を目途に作成する。
- 9 次回の「合同統合部会」を12月11日午後5時より、東京大学で開催する。

IV 会員状況

会員状況は、以下の通りです。（22年10月31日現在）

会員数：448名

内訳：会員315名、学生会員132名、法人会員1名

会費納入率：57%

V 会長の指示による「会計プロジェクトチーム」の設置

総会において、2009年度の会計報告に関して、十分な資料・データが記載されていないことが指摘されました。この点について、まず、会長として、お詫びいたします。

また、会計処理上の整合性（事務局移転にともなって会計処理の引継ぎに不整合があること）を是正するために、会長名で「会計プロジェクトチーム」を設置しました。メンバーは以下の通りです。

黒葛裕之（座長・関西大学）、今田寛典（広島学園大学）大國充彦（札幌学院大学）、藤井史朗（静岡大学）

VI 企画委員会～若手研究者支援企画報告

昨今の若手研究者の過酷さは、すでにマスコミをにぎわせるまでに至っています。その事態は、新興の領域である「社会情報学」も、まったく変わりません。日本社会情報学会は理系・文系の区別なく会員が所属していますが、どの分野でも間違いなく共通しているのは、「若手研究者の道は厳しい」の一言です。この危機はもはや、単に就職が厳しいという景気の問題ではないように思えます。日本の研究機関も、企業も、そして大学でさえ、次世代を育成する力が急速に失われつつあります。

だとすると、この危機は単に若手にとっても問題だけではありません。日本社会の学問そのものが、危機的な状況なのだといえるのではないのでしょうか。

学問の危機に立ちあがるべきなのは、学会でなければなりません。現に多くの学術学会が、若手研究者支援策を打ち出しています。日本社会情報学会はそのなかでも、他の学会にはない、独自の若手研究者支援策を志し、実施してきました。この長崎大会では、研究委員会および合同大会企画委員会の元、以下の3つのプログラムを実施することができました。いずれも日本社会情報学会としてはじめての試みばかりでしたが、当日は多くの方々のご参加を得ることができました。あらためてお礼申し上げます。

VI-1 若手支援 プレカンファレンス

国際研究をめざす若手と、経験を伝えたい有職者がともに議論できるような、新しいセッションと懇親の場として開催されました。趣旨を生かし、アジアの交差点としての長崎を紹介する、長崎奉行所・龍馬伝館でも有名な歴史文化博物館を会場し、以下のように「研究内容面での若手支援」にチャレンジする企画でした。当日は予定を大幅に上回る、44名のご参加をいただくことができ、ご持参いただいた各地の名産を楽しみつつ、先輩方の楽しい国際経験やアドバイスをいただくことができ、大いに盛り上がり、長崎大会の前夜祭ともなりました。

9月3日	場所：長崎歴史文化博物館 講座室
17：30～	プレカンファレンス I
19：00	「アジア太平洋地域の社会情報学—若手研究者の視点から」

	<p>司会：正村俊之（東北大学大学院教授）</p> <p>1.平田知久 京都大学大学院文学研究科 グローバルCOE研究員 テーマ：ネットカフェ&アジア</p> <p>2. 趙 章恩 東京大学大学院学際情報学府博士課程 テーマ：ネット社会、モバイル&韓国</p> <p>3.Pongsapitaksanti Piya 長崎県立大学国際情報学部 講師 テーマ：広告国際比較&タイ</p> <p>4.柴田邦臣 大妻女子大学社会情報学部 准教授 テーマ：ネット、デジタルデバイス&香港</p>
	休憩（簡単な飲食を用意）
19：15～ 20：45	<p>プレカンファレンスⅡ 「社会情報学の国際潮流：若手研究者の国際会議参加支援のために」</p> <p>司会：大國充彦（札幌学院大教授）</p> <p>遠藤 薫 学習院大学 教授 テーマ(文系)：社会学・社会情報学分野の国際潮流</p> <p>毛利嘉孝 東京藝術大学・准教授 テーマ(文系)：文化研究・思想とメディアの国際潮流</p> <p>河又貴洋 長崎県立大学 准教授 テーマ(文系)：経済学分野の国際潮流</p> <p>森田 均 長崎県立大学 教授 テーマ(理系)：認知科学分野の国際潮流</p> <p>横井茂樹 名古屋大学大学院 教授 テーマ(理系・文理融合)：電子社会系・情報分野の国際潮流</p>

VI-2 Academic Presentation Workshop

国際的な研究業績が求められる若手に対する「研究方法面での支援」として、英語でのプレゼンテーションを経験豊かなコメンテータや外国人コメンテータの方々にご批評いただくワークショップも、開催されました。日本人が国際発表で陥りがちな、日本語から英語への翻訳で生じる冗長な表現や日本の前提をそのまま国際発表に持ち込む危険性などを的確に指摘していただいたり、参加者・コメンテータからも何度もわかり易く言い換えてサポートしていただいたりなど、終始和やかな雰囲気でした。若手研究者が国際学会大会で発表を行う際のノウハウを共有し、心理的なハードルを下げるという、同WSの当初の目的はかなりの程度達成できたと思われまます。

初日午前の部会で参加人数に不安がありましたが、20名を超える参加者がありました。また、プレカンともあわせた報告要旨集では、経験者（名古屋大学 吉田千穂さん）によるノウハウをまとめたTipsを掲載するなど、部会を超えた成果もありました。

司会	桜井成一郎 明治学院大学 教授
報告者	佐藤仁美 神奈川工科大学 大学院博士前期課程 松本早野香 明治大学 研究員
コメンテータ	安田孝美 名古屋大学教授 後藤昌人 金城学院大学 准教授 Pongsapitaksanti Piya 長崎県立大学国際情報学部 講師

VI-3 若手の学会参加者への旅費助成

今大会では、開催が遠隔地で料金的に参加しづらい若手研究者が多いと予想されたため、理事会の格別なご協力によって、若手研究者向けに、大会参加のための旅費の一部を学会として補助することができました。補助ならびに支援は、一人当たり5000円でした。

貴重な予算を使用していただくものであるため、必ず審査員を2名たてる、領収書と誓約書を用意させるなど、慎重に実施し、最終的に7名の助成対象者が出ました。アンケートでも、「旅費助成があつてとても助かった」との意見があるなど、大変好評でした。

ただし助成金額5000円は、学生会員の大会参加費と同額であったため、せっかく若手支援企画窓口で受け取った5000円が、隣の大会受付にて右から左に支払われ、無くなってしまうなど、やや不満の残る点がありました。もし次に開催できる機会があれば、大会参加費の減額と合わせて実施できると、さらによいと思われま

現在、若手支援チームは、研究委員会および合同大会企画委員会の若手メンバーが中心となっていますが、JASI・JSISを気にせず、「一緒に必要なこと&面白そうなことをどんどんやる」チームをめざしています。期限もはっきりしない限定的なプログラムですが、最後まで責任と自覚をもって、学問の危機に応答する一翼を少しでも担えればと思っております。まだともし火がついたばかりです。ぜひ多くの方にご理解・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、本企画の開催にこぎつけましたのは、伊藤守会長、正村俊之研究委員長をはじめ、両学会理事・研究委員会・合同大会企画委員会の先生方、そして開催校の長崎県立大学の皆さまのおかげです。あらためて御礼申し上げます。

長崎大会 若手支援企画担当 一同



Ⅶ 事務局から (お願い・ご連絡)

■ 会費納入について

会費督促と振込用紙を同封しました。ご確認いただき、納入をお願いします。

■ 入会・退会について (2010年9月1日～10月31日まで)

【入会】

正会員： 溝口佑爾 (京都大学高等教育研究開発推進センター)

【退会】

退会者： Healey Stuart、松本洋輔

Ⅷ 第59回 日本社会情報学会 (JSIS) 理事会議事録

と き：2010年9月4日 (土) 11:45～12:40

と ころ：長崎県立大学シーボルト校 西棟4階 会議室2

I 報告事項

1 学会誌編集委員会からの報告について (総会資料)

(1) 和文雑誌編集委員会

北村委員長より、15巻1号の編集状況や特集企画について報告があった。

(2) 英文雑誌編集委員会

岡田委員長より、投稿者が減少傾向にあるので会員に投稿を呼びかける旨、また、雑誌の認知度を向上させるため、Vol. 4以降もしばらくの間は紙媒体で発行を続ける旨報告があった。

2 HPでの和文雑誌投稿論文の査読期間の告知について

藤井理事より、「査読期間は約3ヶ月である」旨をHPに掲示するとの報告があった。

3 会員状況および会費納入状況 (総会資料および事務局報告資料-1)

今田事務局長より、「8月31日現在、会員数447名・団体で、正会員305名、名誉会員7名、学生会員134名、法人会員1団体である、会費納入率は51%である、4月1日から8月31日までの間に正会員4名と学生会員17名の入会および5名の退会、1名の除名があった」旨報告があった。

4 2010年度予算執行状況について（総会資料）

今田事務局長より、4月1日から8月31日までの予算執行状況と8月31日時点の学会資産について報告があった。

5 会長・副会長の選出ルールについて

伊藤法規委員会委員長より、現在検討中の2つの選出ルールの利点・欠点について報告があった。

6 ニュースおよび名簿発行に関するアンケート調査について

栗川理事より、ニュース・名簿発行に関するアンケート調査の実施が遅れており、総会後に実施する予定であるが報告された。

7 国立情報学研究所が提供している学会ホームページサーバーのサービス停止

（事務局報告資料-2）

国立情報研究所のサービス停止の通知があったので、安田副会長より新しいサーバーのコストやその運用についてHP刷新部会で検討を行う旨報告があった。

II 審議事項

1 第58回理事会議事録（案）の承認について

資料のとおり議事録案が承認された。

2 会員の入退会の承認について

当日入会希望者1名を含め、2名の入会が承認された。

3 二つの学会のあり方に関する調査結果と今後の進め方について（総会資料）

伊藤会長より、アンケートの結果では約7割の会員がJASIとの合併・統合または上部組織・ブランチを希望している旨報告があった。この結果と二つの学会に関する情報を会員に提供したい、また、公式の場でJASIと「そのあり方」について少数意見も尊重しつつ交渉を進めたいとの提案があり、承認された。

なお、「若手の研究者や海外に向けてアピールできるよう、また、スケールメリットが活かせるよう前向きに取り組むべきである」「この件については十分時間を掛け議論を行ったので、次のステップに進むべきである」などの意見がだされた。

4 2010年度学会賞および2009年研究発表賞について（総会資料）

学会賞については、遠藤選考副委員長より学会賞の推薦論文について資料のとおり提案があり、承認された。研究発表賞については、伊藤会長より研究発表賞候補者の提案があり、承認された。

5 2010年度第16回総会の議題について（総会資料）

議題の変更について承認された。

6 2009年度第15回総会議事録（案）の承認について（総会資料）

資料のとおり議事録案が承認された。

7 2009年度決算（案）および監査報告について（総会資料）

藤井理事から決算案について資料のとおり説明がなされ、また、横井幹事から会計監査について報告があり、承認された。

8 2011年度予算（案）について（総会資料）

今田事務局長より2011年度の予算案とその策定根拠について説明があり、予算案が承認された。なお、これだけの事業を展開すると、会員規模から考えて、予算的には限界の状況に達している旨補足があった。

9 次回理事会の日程について

12月11日（土） 13:00から開催することが承認された。

IX 日本社会情報学会(JSIS) 2010年度16回総会 議事録

日時：2010年9月4日（土） 12:45～13:30

場所：長崎県立大学シーボルト校 W103教室

<お詫び>

今回の総会において議決権の委任手続きに不備（委任状提出時に議案が提示されなかった）があったことをお詫びいたします。そのため、議事録とともに総会資料を会員の皆様に送付することといたしました。

しかし、現在、会計処理上の整合性を図るため、会計プロジェクトチームが鋭意精査中ですので、総会資料の報告事項「2010年度予算執行状況」、審議事項「2009年度決算（案）および監査報告」「2010年度年度予算（案）」につきましては、学会ニュース第41号に掲載する予定です。

○出席者数確認：

栗川理事より、出席者26人、委任状147人、合計173人であり、定足数（117人）を上回っており、総会が成立しているとの確認があった。

○会長挨拶：

伊藤会長から挨拶があった。

○議長選出：

伊藤会長から議長として栗川理事の指名がなされた。

総会議題：

栗川理事から、報告事項の8を審議事項の7に変更する旨説明がなされた。

【報告事項】

1 一般会務報告（第56回～59回理事会、会員・会費納入状況）

今田事務局長より、標記の理事会の活動概要について報告がなされた。また、2010年8月31日現在の会員数が447名、会費納入率が51%である旨報告がなされた。

2 2010年度予算執行状況について

今田事務局長より、4月1日から8月31日までの予算執行状況と8月31日時点の学会資産について報告があった。

3 学会誌編集委員会報告について

(1) 和文雑誌編集委員会

橋元委員長より、「原著論文」と「研究」の性格の違いや査読システムの変更について報告があった。

(2) 英文雑誌編集委員会

岡田委員長より、投稿者が減少傾向にあるので会員に投稿を呼びかける旨、また、雑誌の認知度を向上させるため、Vol. 4以降もしばらくの間は紙媒体で発行を続ける旨の報告があった。

4 研究委員会報告について

正村委員長より資料のとおり報告があった。

5 2010年度学会賞について

遠藤学会賞選考副委員長から学会賞の推薦論文について資料のとおり報告があった。なお、賞状の授与はJASIとの合同表彰式で行われた。

6 2009年度第14回合同研究大会JSIS研究発表賞について

伊藤会長より資料のとおり報告があった。

7 2011年度第16回合同研究大会について

伊藤会長より、次年度大会運営候補校について数大学に打診を行っているとの報告があった。

【審議事項】

- 1 第15回総会議事録（案）の承認について
今田事務局長から第15回総会議事録（案）の概要について説明があり、承認された。
- 2 2009年度決算（案）および監査報告について
藤井理事から決算案について資料のとおり説明がなされ、また、横井幹事から会計監査について報告があった。下記の質疑・回答がなされ、承認された。
[質問] 決算報告は、いろいろな方法があるが、収入と支出が併記され、それぞれにおいて予算と決算とが対比されるものが基本であり、また、預金・繰越金も重要である。事務局は会計の専門家ではないが、基本は押さえて欲しい。貸借対照表も提示して欲しい。
[質問] 監査報告では、「会計処理が適正に執行されていた」という報告が、一般的だと思う。
[質問] 決算報告は重要なことなので、2009年度の資料についても適正なものに修正すべきだ。
[回答] 2010年度の決算および会計監査においては、質問の趣旨を踏まえ適切な資料を作成したい。また、2009年度の資料についても、修正版を作成し会員に提供したい。
- 3 2011年度予算（案）について
今田事務局長より2011年度予算案とその策定根拠の説明があり、予算案が承認された。なお、これだけの事業を展開すると、会員規模から考えて、予算的には限界の状況に達している旨補足があった。
- 4 JSIS・JASIの連携について
伊藤会長より、アンケートの結果では約7割の会員がJASIとの合併・統合または上部組織・ブランチを希望している旨報告があった。この結果と二つの学会に関する情報を会員に提供したい、また、公式の場でJASIと「そのあり方」について少数意見も尊重しつつ交渉を進めたいとの提案があり、承認された。
- 5 名誉会員について
伊藤会長より、名誉会員として黒須俊夫前会長を推薦したい旨提案があり、承認された。
- 6 JSISニュース、会員名簿の発行について
今田事務局長より、学会経費の節約のため、JSISニュースの紙媒体での発行の廃止や、会員名簿の有料化を検討しており、このことについて会員に対してアンケートを行いたい旨提案がなされ、承認された。
- 7 会長・副会長の選出ルールについて
伊藤会長から選出ルールについて次のとおり報告された。
現在の会長・副会長の選出ルールは、会長と副会長を連記するので、会長候補で次点になった候補が副会長に選出されないケースがあるという欠点がある。その欠点を改善する選出ルールについて検討中であること、また、選出ルールを透明かつ明確にするために規約等の改正について検討中であることが報告された。下記の質疑・回答のうえ、承認された。
[質問] 来年度の選挙は現在のルールで行うのか。
[回答] 選挙の透明化を図るため、新しい選出ルールを作り、来年度の選挙は新ルールで実施したい。また、そのルールについては来年度の総会で承認を得たい。なお、新しいルールも現行規約の第14条には抵触しない範囲のものである。
- 8 その他
[質問] 委任状を取る前に、議題を提示する必要があるが、今回はその手続きが抜けているのではないかと。
[回答] 今回はその手続きを踏んでいないので、総会后、総会議題と資料をメールで会員に送付する。

□表彰式では、伊藤会長から賞状および副賞が授与された。

- ・名誉会員証授与式 黒須 俊夫（前会長）
- ・研究奨励賞授与式 天笠 邦一（慶應義塾大学）
- ・研究発表優秀賞授与式 吉田 千穂（名古屋大学）